

環境研究総合推進費 新規戦略課題提案

持続可能な開発目標とガバナンスに関 する総合的研究

- 地球の限られた資源と環境容量に基
づくポスト2015年開発・成長目標の制
定と実現へ向けて -

プロジェクトリーダー

東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授 蟹江憲史

研究の背景と意義

<ミレニアム開発目標(MDGs)>

2015

<持続可能な開発目標(SDGs)>

MDG7: 環境の持続可能性確保

✓ 具体的目標

1. 持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
2. 生物多様性の損失を抑え、2010年までに、損失率の大幅な引き下げを達成する。
3. 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる。

課題

- ✓ 途上国対象型
- ✓ MDG7は明確な定量的目標ではない
- ✓ 他のMDGsに比べ森林問題や水問題、CO2排出等の課題に対する進捗は芳しいものではないとの評価
- ✓ グローバル目標と国家目標の関係性

これまでの議論

- リオ+20プロセスでコロンビア・ペルーによる提案、リオ+20の成果
- 多くの国・機関・市民社会が支持
- 2015年以降の開発目標と統合
- 持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)に統合的に対応
- 先進国・途上国を対象とする普遍的目標
- 新たな課題(エネルギー、防災等)も検討

論点

- ✓ MDGsとの関係性
- ✓ 主要原則
 - 普遍性
 - 「共通だが差異のある責任」原則
- ✓ 対象課題・分野(エネルギー、新技術等)
- ✓ 測定手段・指標
- ✓ 実施手段(資金、能力開発、技術移転等)
- ✓ ガバナンス
- ✓ ロードマップ

これらの全体的動向を把握し、地球システム変動に対応した、多角的視点・分野横断による研究が必要

研究の背景:ミレニアム開発目標 (MDGs)と資源環境制約

- MDGsの目標と地球変動・環境変化の連関
例)
 - 海面上昇の食糧生産や都市インフラへの影響(バングラデシュやインドネシア等)
 - サブサハラ・アフリカへの気温上昇の影響(全球 2°C ⇒サブサハラ 3°C)による食糧、水、衛生等への影響
 - 貧困回避のための都市人口の集中による都市環境の悪化・ヒートアイランド現象の助長
 - 養殖(食糧確保)のためのマングローブ伐採による低海拔地域の脆弱性増大



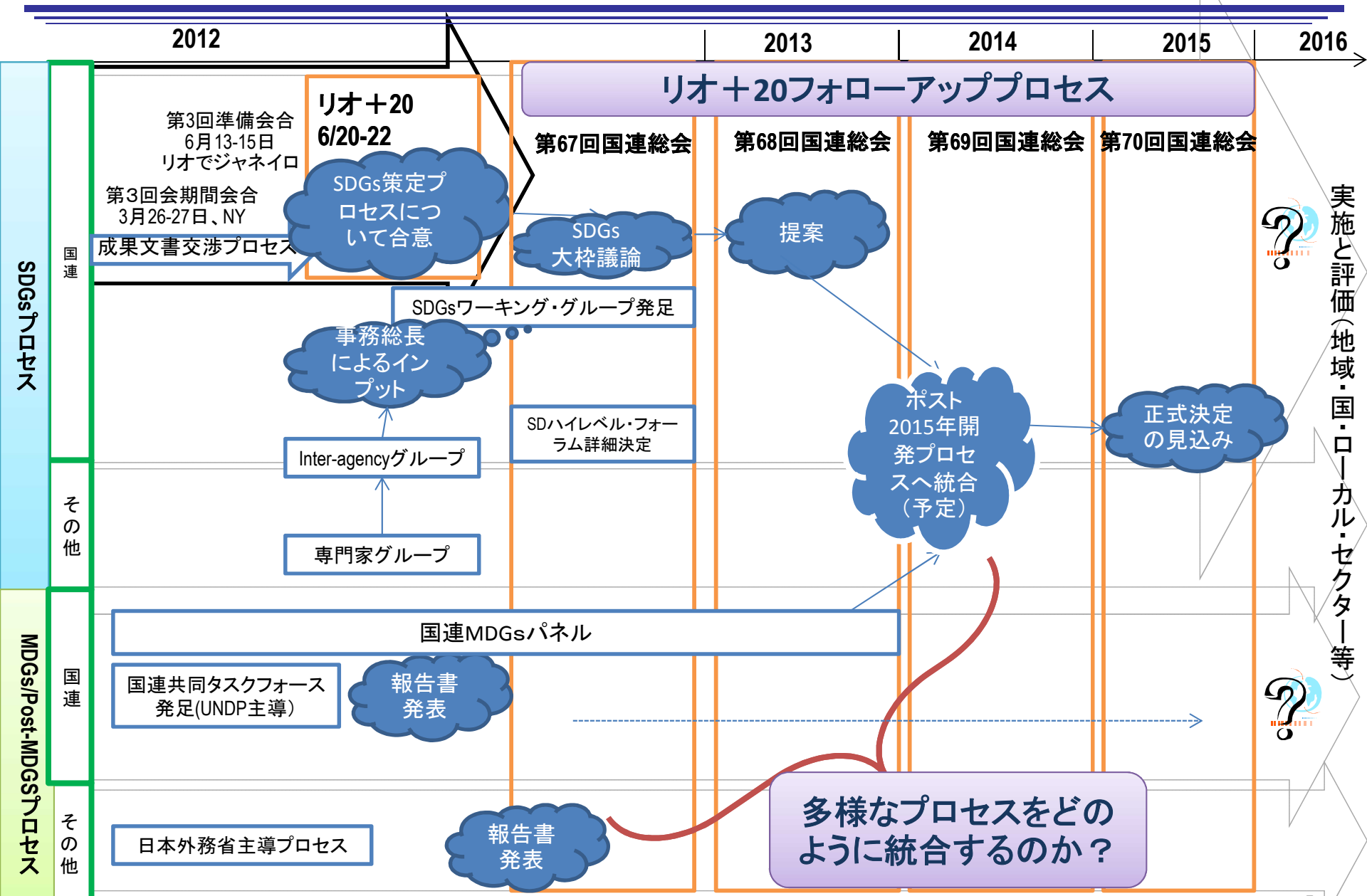
MDGsと環境変化の連関を考慮したポストMDGsとその実現のためのガバナンスは、持続可能な開発実現のための本質的かつ喫緊の課題

国連持続可能な開発会議（リオ＋20）成果文書



- リオ＋20の数少ない成果との評価
- 持続可能な開発目標（SDGs）策定へ向けたプロセスに合意
 - 12年国連総会で詳細合意
 - 13年国連総会までにワーキンググループが提案提出
 - 14年国連総会で決定見込み
- ポスト・ミレニアム開発目標（2015年以降の国連開発アジェンダ）との統合

多様な協議プロセスが進行中



プロジェクトの課題と目標

1. 2015年以降の開発・成長目標としてのSDGs及びその評価指標のオプション及び実施シナリオを、科学的根拠に基づいて提示し、世界レベル、地域レベル、日本をはじめとした国家レベル、さらにはローカルレベルやセクターレベルでのSDGs設定に貢献する。
2. 資源・環境制約のもとでの21世紀型の持続可能な成長・開発のためのビジョンや方向性を科学的根拠に基づいて提示する。
3. 研究における環境（コミュニティー）と開発（コミュニティー）の融合
4. 国際的研究ネットワークを確立し、その中心となる拠点を構築する。
5. 成果を国際的なWSで発表、誘導する。

従来は個別に研究

環境研究

持続可能な
開発／
Beyond GDP
指標研究

途上国開発
ポスト2015
開発研究

ガバナンス
制度・実施・
評価
研究

シナリオ
研究

本研究
環境と開発の統合
—資源環境制約のもとでの開発目標—

モデル
数値目標

包括的かつ多面的研究プロジェクト

都市・自治体

地域

セクター

2014年or2015年 国連総会

国

国際論議
ポスト2015年
開発目標
(ポストMDGs)

国際論議
持続可能な開
発目標
(SDGs)

従来は現実には別々に議論

持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究(S-11)

テーマ1: 資源環境制約下の開発・成長の方向性と目標及び効果的ガバナンスの提示

成果目標

- 国際論議の方向性分析、総括－目標・指標ワーキンググループ等による連携体制管理
- 目標の構造化、理念と世界像の提示

サブテーマ

- ・ 全体統括及び目標・指標とガバナンスの総合的提示
- ・ 持続可能な開発目標とその実現に資するボトムアップ事例の検討
- ・ 目標や指標の定量的オプションやシナリオの提示
- ・ 資源・エネルギー・食糧・水等の複合目標及び指標の検討
- ・ 持続可能な開発と成長のためのビジョンの提示

テーマ2: 資源環境制約の観点からの目標と指標の提示

成果目標

- 資源環境制約に基づいた目標、指標の提示

サブテーマ

- ・ Beyond GDP目標と指標の提示
- ・ 資源・環境制約下での開発及び成長実現のための目標や指標の提示
- ・ 環境容量の観点からの制約条件の検討
- ・ 資源の観点からの制約条件の検討

テーマ3: 開発の観点からの目標と指標の提示

成果目標

- BHN充足の観点からの目標、指標の提示
- ODA及びODA以外の方法による開発への提言

サブテーマ

- ・ 教育分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示
- ・ 保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示
- ・ 経済開発分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示
- ・ 水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

テーマ4: 持続可能な開発目標実現のためのガバナンスの研究

成果目標

- 目標と関連付けた規範作り、ガバナンスの仕組みの提案
- 国レベルのモデル構築

サブテーマ

- ・ 持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方の検討
- ・ 国連を中心とした持続可能な開発のガバナンスの検討
- ・ 効果的資金メカニズムの検討

ENB委託

S-11

PL蟹江(東工大)

サブテーマ2

持続可能な開発目標とその実現に資するボトムアップ事例の検討

サブテーマ3

目標や指標の定量的オプションやシナリオの提示

サブテーマ4

資源・エネルギー・食糧・水等の複合目標及び指標の検討

サブテーマ1
全体統括及び目標・指標とガバナンスの総合的提示

サブテーマ5
持続可能な開発と成長のためのビジョンの提示

テーマ1
資源環境制約下の開発・成長の方向性と目標及び効果的ガバナンスの提示
【統括班】
東工大 蟹江

テーマ2

資源環境制約の観点からの目標と指標の提示
東北大 馬奈木

テーマ3

開発の観点からの目標と指標の提示
上智大学 北村友人

テーマ4

持続可能な開発目標実現のためのガバナンスの研究
IGES 森

サブテーマ1

Beyond GDP目標と指標の提示

サブテーマ2

資源・環境制約下での開発及び成長実現のための目標や指標の提示

サブテーマ3

環境容量の観点からの制約条件の検討

サブテーマ4

資源の観点からの制約条件の検討

サブテーマ1

教育分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

サブテーマ2

保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

サブテーマ3

経済開発分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

サブテーマ4

水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

サブテーマ1

持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方の検討

サブテーマ2

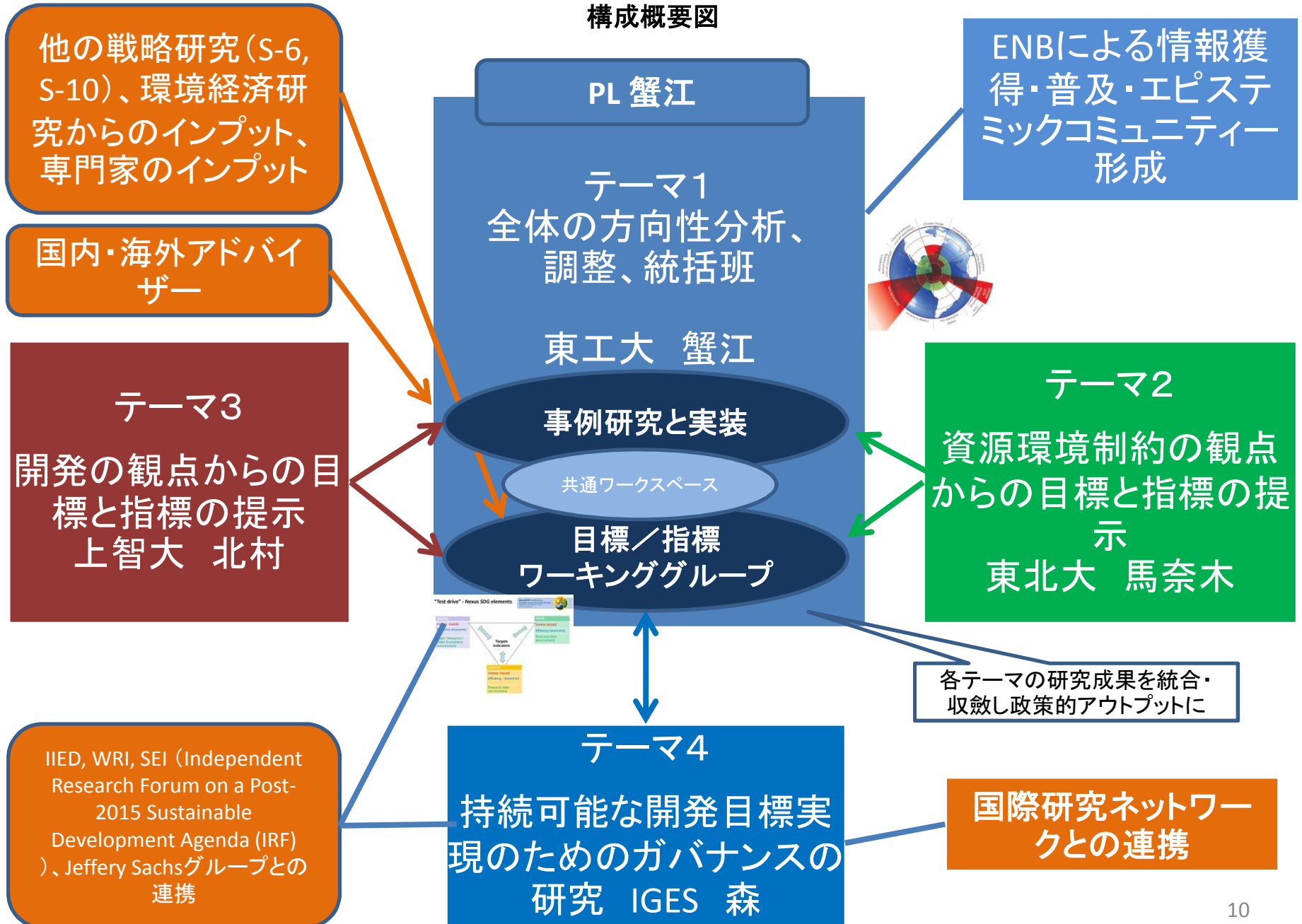
国連を中心とした持続可能な開発のガバナンスの検討

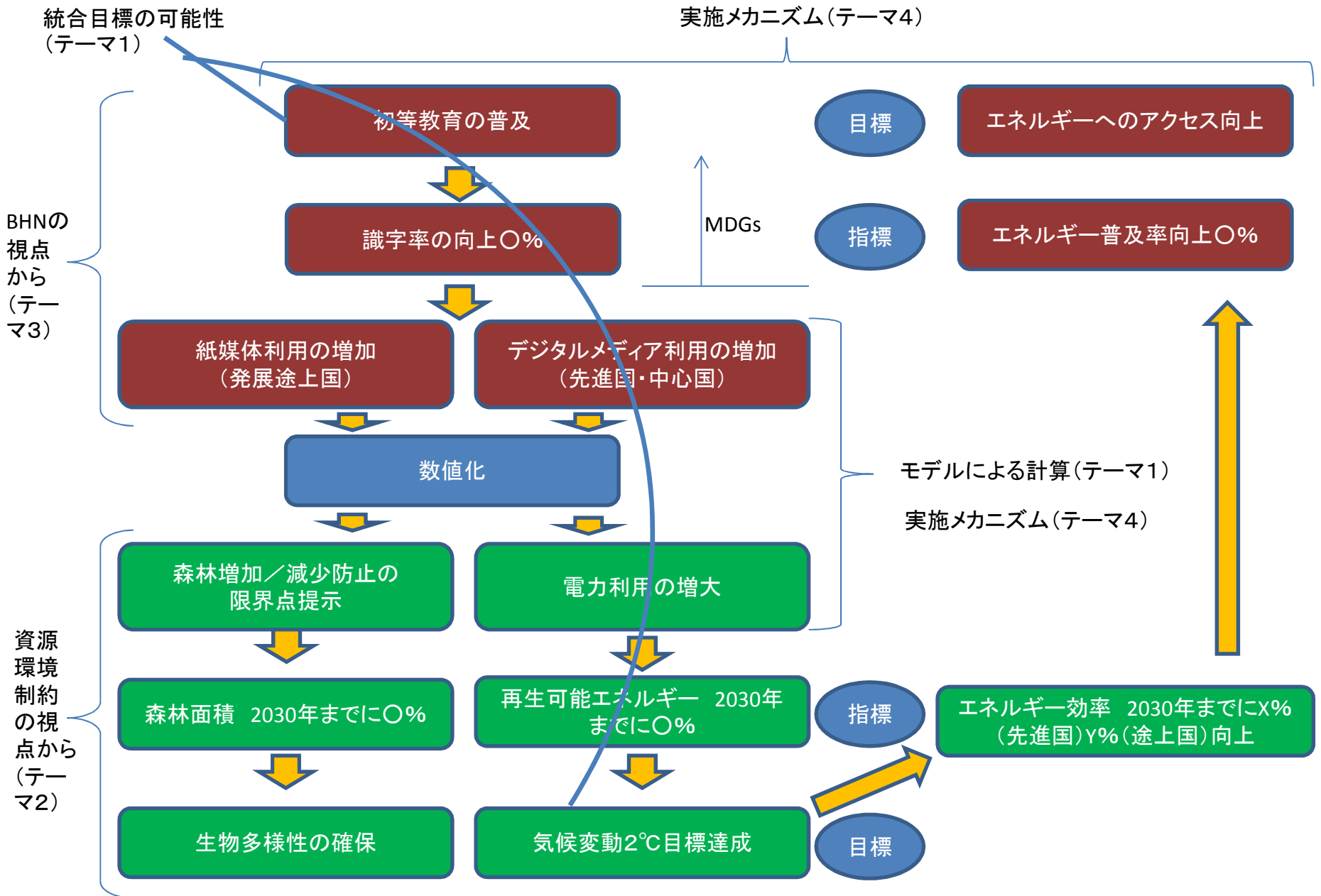
サブテーマ3

効果的資金メカニズムの検討

持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究 (S-11)

- 地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト2015年開発・成長目標の制定と実現へ向けて -
構成概要図

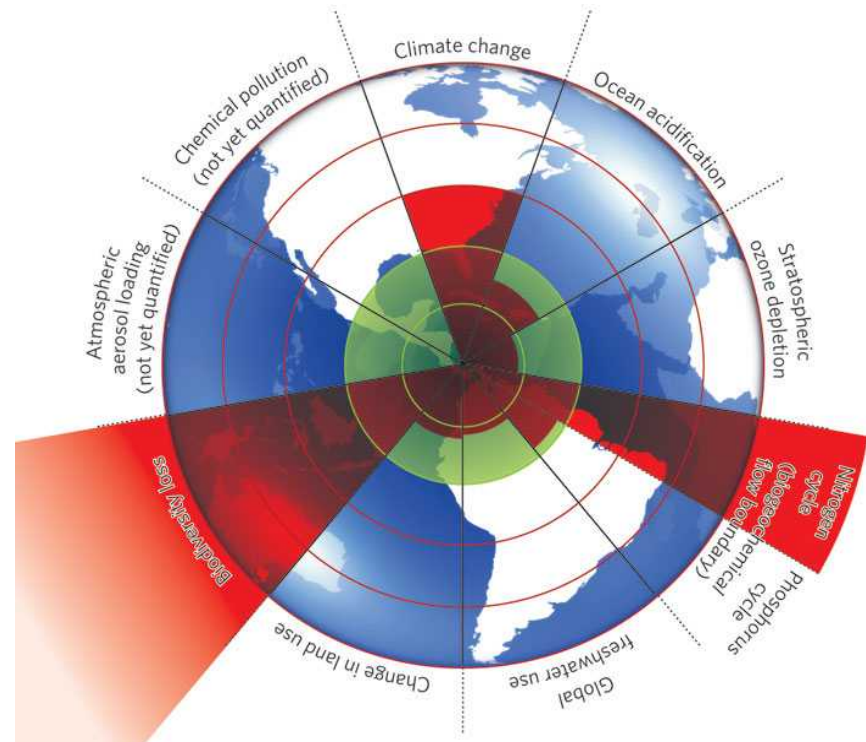
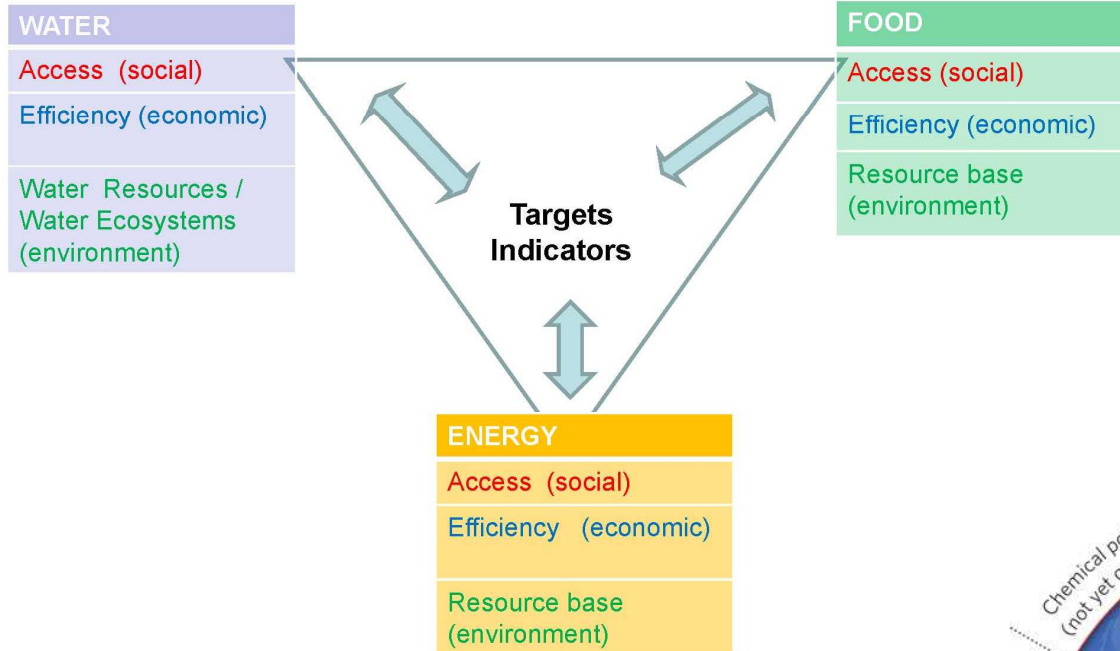




各テーマの研究とワーキンググループでのアウトプット作成例(イメージ)



新たな目標のあり方の検討例



プロジェクトの特徴

意義(社会的・行政的・研究的)

- 環境と開発のコミュニティの連携で、研究面から分野の枠を超える
- 持続可能な開発目標を梃子に、ODAのみではなく、モデルとしての日本も対象にした環境と開発の統合研究
- 持続可能性に関する広範な社会的論議への貢献

独創性

- 科学的にはNature や ScienceのPolicy Forum等へのインプットを目指すことで蝸壺に入らない研究を志向
- シナリオ研究、モデル研究、実施・評価メカニズム・制度を含む総合的かつ横断的政策研究
- IIED Earth Negotiations Bulletinチームや国連等との連携で、進行中の国際プロセスに関する包括的情報網を活用したエピステミックコミュニティを創出
- IHDP Earth System Governance プロジェクトとの包括的国際連携
- ワーキンググループ、電話会議の多用等の導入によるダイナミックなチーム間連携でアウトプットを創出